

## 最近の卓球部

三十期生 酒井 信介

昨年の十月頃だったかと思いますが、荻村伊智朗さんが指導をなさっている「青卓会」というクラブに練習に行く機会を得て、男女十数名で三鷹体育館へ行き、練習の仲間入りをしました。

荻村さんといえば、いくら西高での先輩にあたるとは言え、世界で活躍された、いわば僕らにとっては雲の上の人という感じが強かったので、何かうれいようなこわいような複雑な気持ちで練習していたものです。

練習の内容に特に変わっている点は無かったと思います。が、練習に参加している全員をグループに分けて試合をする時になって、たまたま自分が、その日居合わせた、ある全日本の選手とやるはめになったときはいったいどうなることかと(？)ひや汗をかいたものです。もっとも気をつかって下さったのか、ほとんどまん中しかボールは返ってきませんでした。それが……。それにしても、今それらをあらためて思い出すにつけ、たしかにとってもいい練習になったし、練習方法など

も勉強になったけれども、それだけではない何かを僕はそこで見つけたのではなかったかという気がします。

それは、おそらく帰る間ぎわに僕たち部員を前にして二十分近くも時間をさいて話をして下さった荻村さんのすばらしい温厚な人柄と、そのまわりの全日本の選手の人たちの練習に対する真剣な姿勢とにあったにちがいありません。それらを、じかに接することによって知ることができたという意味で僕らにとって貴重な経験でした。

現在のクラブの活動状況なども書こうかと思つたのですが、ここではやめにしておきたいと思います。練習方法などまだいたらない面が数多くありますが、僕らなりに一生懸命やっているつもりです。

荻村さんをはじめとして多くの人々の手によって築かれてきた、今年三十周年を迎えるというこの西高卓球部の流れの中に、僕らが小さな足跡を残すことも、決して意味のないことではないだろうと思うのです。

